

# びわこの 考湖学

29

今回は佐和山城についてみてみましたが、今回は佐和山城廃城のきっかけとなった彦根城について取り上げたいと思います。

琵琶湖に面した彦根市金亀町に位置する彦根城は、山裾からの比高差約50mの彦根山(金亀山)標高138mを(金亀山)標高138mを中心に乗かれた近世城郭です。安土城や姫路城など中・近世城郭では9例しかない国の特別史跡に指定され、また、近世城郭のシンボルともいえる天守が現存している数少ない城のひとつであります。

そのほかにも江戸時代の建造物が数多く現存するなど、全国的にみても希少価値の高い城といえます。そこで、彦根城とはどのような城であったのか、その歴史的背景から迫りたいと思います。

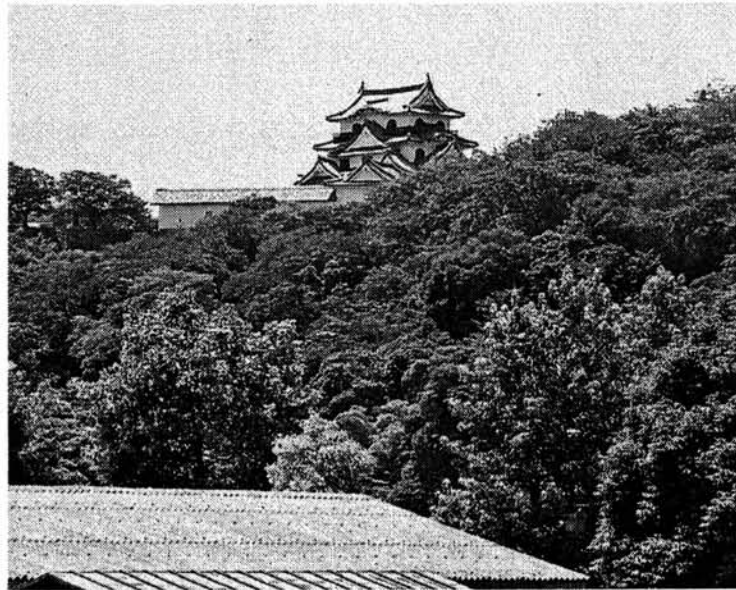
関ヶ原合戦の翌年である慶長6(1601)年、論功行賞によって徳川四天王の一人井伊直政が石田三成の居城であった佐和山城に入りました。当時、関東を拠点とする

徳川方の勢力の中で、佐和山城が最西端に立地したことから、大坂城の豊臣秀頼とそれに従う西国の豊臣恩顧の大名に対して、にらみをきかせる必要があったのでした。

ただ、佐和山城は前回に紹介したとおり、一部を除いて戦国時代に一般的であった土造りの構造であったこと、山裾からの比高差約130mにおよぶ山上に立地しているために防御には有効であったも、日常の活動には不便であることから、近世という新しい時代に適した城ではありませんでした。

そこで、嫡子直継の代になり、佐和山より約2km西方に位置する彦根山に居城を移すこととなりました。これについては、佐和山に比べて彦根山が山裾からの比高差約50mと低く、その麓には平地が広がっていたことから、軍事的

## 彦根城



佐和山城の廃城とともに築城された彦根城。琵琶湖や松原内湖に面していたことが立地選定の最大の決め手になったと考えられる  
—彦根市

にも城下町経営にもちょうと都合が良かったことがあげられるでしょう。

そして、何よりもまして琵琶湖や松原内湖に面していることから、その防御性ととも湖上交通に適した立地であったことが最大の決め手になったといえます。城の立地は、中世の「山城」から近世の「平城」「平山城」へ変遷

するといわれていますが、佐和山城と彦根城はその典型的な事例といえます。

彦根築城は慶長8(1603)年ごろに開始されました。当初は幕府からも普請奉行が派遣され、多くの諸大名が手伝普請を命じられるなど、膳所城と同様に幕府の全面的な支援を受けました。元和(1615)年大阪夏の

陣で幕府方が勝利を収めた後は、彦根藩単独で築城が続けられ、元和8(1622)年ごろに約20年にわたる長い年月と膨大な労力をかけて完成しました。

彦根藩では、船奉行からは独立した管理権を認められ、非常事態の軍事動員に備えられていました。たとえば、三代将軍家光が上洛した折には、井伊直孝が彦根城で陸路を膳所に向かう家光を見送った後、早船を飛ばして膳所に先回りして再び出迎えたという逸話があります。彦根藩の軍事力(中でも水運輸送力)を誇示するものでした。

彦根城は、徳川方の最西端に位置した城に信頼厚い井伊家を城主に任じることから、幕府による西国の押さえのための橋頭堡として重要な役割を担っていたといえるでしょう。

現在、彦根城は世界遺産の暫定リストに登録されています。彦根市は、城下町や佐和山城などの歴史的背景を含めた世界遺産への登録に向けて、市をあげて取り組んでおられます。この成果が実ることとを強く期待したいと思えます。

# 湖上交通ににらみ

(滋賀県文化財保護協会 金松誠)